



「昆虫の図鑑 採集と標本の作り方」(2009)  
福田晴夫、山下秋厚、福田輝彦、江平憲治  
二町一成、大坪修一、中峯浩司、塚田拓著  
南方新社発行

●企画展 図鑑大好き！

～ダーウィンからはじまる100の図鑑の話～ 2

●特集 私と図鑑の話

- ぼろぼろになった昆虫図鑑 ..... 4
- 初心者でも使える最高のクモ図鑑 ..... 4
- 図鑑が拓く「世界」 ..... 5
- ムーブがブーム ..... 5
- 図鑑は絵本 ..... 6
- 著者と編集者の“つくりたい” ..... 6
- 図鑑展に寄せてー図鑑と私 ..... 7
- 学習図鑑の魅力 ..... 7

図鑑と標本 ..... 8

●分館から

- 海藻いろいろー千葉県の豊かな海からー ..... 9
- 仏教美術で地域文化を再発見 ..... 10
- 昭和の名車大集合 ..... 10

●フィールドから

- 来園者が作る生態園の解説板 ..... 11
- 校内学習で岩石授業 ..... 11

●トピックス展

もののけ来るぞ！ ..... 12

平成26年度企画展

# 図鑑大好き

～ダーウィンからはじまる100の図鑑の話～

平成26年7月19日(土)から10月13日(月・祝)

植物学研究科 齋木 健一

平成26年度夏の企画展では、生きものを観察する上で欠かせないツール、図鑑を徹底紹介致します。日本は世界的にみても稀な図鑑大国です。質、量ともに世界一である日本の図鑑の歴史、作り方、工夫などをご紹介します、あなたに最適の図鑑が見つかるよう、お手伝い致します。

**● 最古の昆虫図鑑は明治中期に**

日本には、薬を探すための道具として薬草を図示した書物が古くから印刷されていました。しかし、近代科学的な意味での図鑑は、植物では江戸末期、昆虫では明治中期がはじまりとされています。今回の展示では、飯沼慾齋の『草木図説 草部』(1860年頃)やプライヤーの『日本蝶類図譜』(1886-1889)など、最初期の図鑑から展示して、明治・大正・昭和・平成の図鑑をご覧頂けます。

**● 図鑑に見られる様々な工夫**

生きものの名前を調べるため、生きものの姿を、より正確に伝えるために、様々な工夫が凝らされてきました。それまで机上で使うことが当たり前だった図鑑を野外で使える本にした最初の図鑑が1934年にアメリカで刊行されたピーターソンの鳥類図鑑です。似た種類と見分けるために、特徴を示す矢印を図中に記した点や、同じ姿勢の鳥を並べて、比較しやすくした点にそれまでの図鑑にない工夫がみられ、その後の図鑑に大きな影響を与えました。

この他、カラー写真の導入や実物転写、検索システムの導入など、様々な工夫の凝らされた図鑑も多数紹介致します。

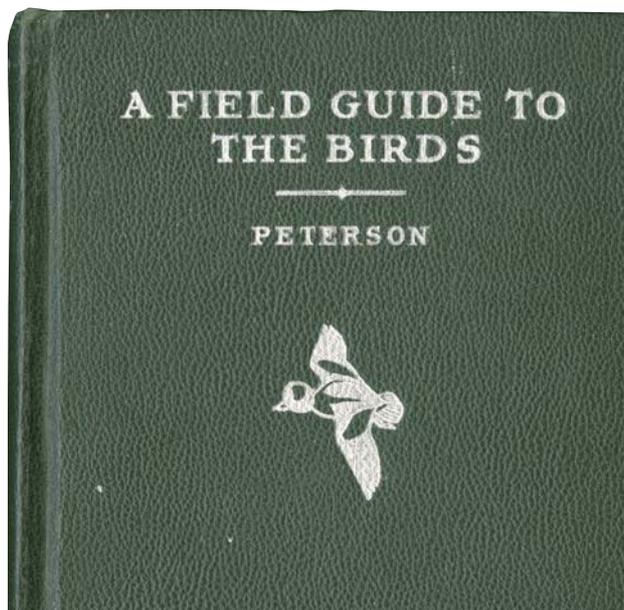
**● 手にとって見る**

従来の企画展とちがい、今回は、できる限り多くの図鑑を、手にとってご覧頂ける状態で展示します。小学生時代に愛読したあの図鑑にもきっと再会できます。ガラスケースに展示してあっては見ることの

できないどのページも自由にご覧頂くことができます。図鑑により時代により同じ種類の説明や絵がどのように変わってきたのか、是非ご自分の目でお確かめ下さい。



プライヤーの日本蝶類図譜 (1886-89)



ピーターソンの鳥類図鑑 (1934)

## ● 図鑑とつきあう

図鑑とのつきあい方は、十人十色です。やくみつるさん、さかなクン、柳生真吾さんなどの著名人、千葉県内の自然をブログで紹介してる方、研究者、学芸員など、多くの人々から、愛用の図鑑や図鑑とつきあうヒントをいただきました。

## ● 図鑑で名前調べ

実物標本を手に、図鑑を使って名前を調べましょう。昆虫、植物、貝、鳥などの生きものの名前を、クイズ形式で調べるハンズオンコーナーを開きます。楽しみながら、図鑑活用スキルが確実にアップします。

## ● 図鑑のプロに学ぶ

「日本の昆虫1400」の著者、<sup>えんじゆ まさし</sup> 槐真史さんや、植物写真家の<sup>おおさく こういち</sup> 大作晃一さん、水生生物写真家の<sup>まつざわ ようじ</sup> 松沢陽士さんなど、図鑑の著者・フォトグラファー・学芸員を講師に、生きものの見つけ方・調べ方・撮り方・図鑑の作り方を体験しましょう。会期中、全部で14の講座が開かれます。詳しくは行事カレンダーをご覧ください。

## ● インターネット図鑑の世界

無料で手軽に使うことができるので、今、爆発的に普及しているインターネットの図鑑。その中でも有名なネット図鑑の管理人3名をお招きし、楽しい座談会を9月21日(日)に開催します。どのネット図鑑も閲覧可能でどれも、サイト名(太字)で検索すればすぐ見つかります。

- ・川邊 <sup>かわべ とおる</sup> 透さん (昆虫エクスプローラ 管理人)
- ・ぼうずコンニャクさん (市場魚貝図鑑 管理人)
- ・神保 <sup>じんぼ うつぎ</sup> 宇嗣さん  
(みんなで作る日本産蛾類図鑑 共同管理人)
- ・千葉県立中央博物館の野草・雑草検索図鑑パソコン版、スマートフォン版もご覧ください。

## ● 図鑑から自然へ

図鑑展の準備を通して、図鑑とのつきあい方には2つあることがわかりました。ふだんから読み物として図鑑に親しむやり方と、生きものや写真を前に、図鑑を調べるやり方です。きっと、ふだんから、ゆったりと図鑑をながめていれば、調べるときにも、目的の生きものにたどり着きやすくなるのでしょう。



実物標本の名前を図鑑で調べるクイズコーナー



図鑑のプロに生き物の調べ方、撮り方を学べる講座

著名管理人によるインターネット図鑑の座談会を開催

取材を受けて下さった柳生真吾さんは、次のようにおっしゃっていました。「図鑑は本棚にしまっちゃダメ。机の上であって、いつでも見られるようにしておかないと。」

皆さんも是非、図鑑を友に自然を楽しんで下さい。



## 私と図鑑の話

平成26年度の中央博物館、この夏は「図鑑」がテーマです。館内では今、図鑑の話が溢れています…。当館の研究者や関係する方々の図鑑にまつわるいろいろな話を集めてみました。

## ぼろぼろになった昆虫図鑑

地学研究科 伊左治 鎮司

私は、自然豊かな田舎に生まれ育ちましたので、しぜんと昆虫ファンになっていました。とりわけクワガタムシの採集に夢中になり、小学生のときは、図鑑に載っているすべての種類を捕まえたいと思っていました。夏が近づくと、授業の間のわずかな休み時間に小学校を抜け出して、学校脇にあった栗の木林に侵入し、クワガタムシを捕まえて、帽子の中に入れて教室にもちかえり、さらに筆箱に移し替え、机の中に隠していたものです。実家の庭でも、コクワガタやノコギリクワガタ、ミヤマクワガタなどを捕まえることができました。ヒラタクワガタが集ま

る“秘密のクヌギの木”を知っていたのも、密かな自慢でした。捕まえた種類を図鑑で確認するのがうれしかったのですが、どうしてもみつけれない種類があり、それはあこがれの存在でした。

今となっては、当時の図鑑は残されておらず、出版元すらわからないのですが、それは白っぽく装丁された図鑑でした。毎日図鑑を眺めるうちに、何巻もあった図鑑のシリーズのうち、昆虫図鑑だけが茶色になり、ぼろぼろになってしまった事を覚えています。

## 初心者でも使える最高のクモ図鑑

生態学・環境研究科 / 千葉県生物多様性センター 萩野 康則

博物館に就職して、専門外のクモも担当することになって以来、「座右の図鑑」として大いに助けられているのが『写真日本クモ類大図鑑』（千国安之輔著、偕成社、1989年）です。

従来のクモ図鑑はクモが絵で示されていましたが、実物の微妙な光沢や質感はどうしても再現しきれず、初心者が名前を調べるのには使いづらいものでした。これらの特徴は、写真なら表現できるのですが、クモは標本にすると体色が変わってしまうため、標本写真は図鑑には使えません。また、生きたクモは動きまわるので、望む体形で写真を撮ることができません。それをこの図鑑では、生きたままのクモをエーテルで麻酔して、体形をきれいに整えてから撮影するという、おそろしく手間のかかる手法を用いて解決したのです。

また、クモは色彩や模様の変異のために全形では別種に見えても実は同種、逆に全形は瓜二つでも実は別種、ということがあり、このような場合は生殖器官で種の識別をします。過去の図鑑では生殖器官

も線画で示されていましたが、やはり初学者には分かりづらいものでした。この図鑑では生殖器官も鮮明な写真で示されており、実に分かりやすく照合できるのです。

掲載種数は540種と、日本から記録されているクモの半数以下ですが、普通種はほとんど掲載されており、実用にはまず問題がありません。全形も生殖器官も、今見ているクモと図鑑の写真とが驚くほどピッタリ合致する、初心者でも使える最高のクモ図鑑です。

現在新刊として入手できるのは2008年に発行された改訂版です。本体価格30,000円と、高価なのが唯一の欠点ですが、本格的にクモを調べたい方にはぜひ使っていただきたい図鑑です。



## 図鑑が拓く「世界」

教育普及課 石渡 克彦

今でこそ歴史学を専門とする私ですが、歴史と出会う前は、いつも図鑑を眺めているような子どもでした。色鮮やかな魚や不思議なかたちをした虫たち。幼い私の好奇心を満たしてくれるもの、それが図鑑でした。私の祖父は本に出資を惜しまない人で、私もその恩恵に与り、ときには高額な本をおねだりしたこともあります。そんな家ですから、当然のように物心ついたときから図鑑は身近にありました。実物を見たことがなくとも、あらゆる種を図鑑のなかで見ることができる楽しみ。商品カタログを見ながら、いつかはこれを是非手に入れたいと夢を膨らませるように、昆虫図鑑ならミヤマクワガタ、魚類図鑑ならイシダイというように、お気に入りの毎日のように眺めていました。昨年、初めてその夢にみたミヤマクワガタを飼うことができました。実に30数年来の念願叶い、ついに本物を手に入れたことになりま。世の中には「図鑑でしか見たことがないもの」が、一体どれだけあるのでしょうか。よほどの専門家でも

ない限り、おそらくは図鑑でしか知らない世界がほとんどではないでしょうか。そのすべてを三次元の実体験として経験することは、およそ人の一生では不可能といえます。たとえ二次元の平面世界であっても、まるで自分のコレクションが並んでいるような感覚、図鑑にそんな魅力を感じるのは私だけではないはずです。ただ、そこで完結しないこと、その前後に実体験を求める欲求こそが、図鑑の魅力を最大限に引き出す重要な要素ではないでしょうか。

今、巷には「図鑑」と名のつくものが溢れています。その対象は現実世界にとどまらず、空想・仮想世界、果てはこの世ならざる世界と「図鑑の世界」は広がっています。処理しきれないほどの様々な情報が身近にある現代社会にあって、その多種多様な情報を処理するためのツールとして「図鑑」の名が象徴化されているのでしょうか。求めようにも実体験が不可能な世界がそこにはあります。皆さんは「図鑑」をどう使いますか。

## ムーブがブーム

房総の山のフィールド・ミュージアム 大木 淳一

我が家の息子が通う幼稚園では、講談社の動く図鑑『move』シリーズが大人気です。その秘密はおまけのDVDにあります。このDVDには各図鑑に関する映像が盛りだくさん。しかも、NHK『ダーウィンが来た!』などで放送した、珠玉の貴重映像が惜しみなく使用されておりま。さらに、アニメーションやナレーションなども子供達が夢中になるような構成になっているため、一度見始めるとテレビの前から離れない始末。食事前に見始めたら親としては気が気ではありません。

また、息子のお友達にmoveの『恐竜』『動物』をプレゼントしたらはまってしまい、彼は図鑑を片手に登園し、ボロボロになったため2冊目を購入したようです。さらに彼はページ数まで記憶しており、私の自宅に飾ってある小笠原で撮影したザトウクジラの写真を見て「110ページに載ってるよ。」と教えてくれます。興味を持った時の子供の記憶力は凄いです。

私が幼い頃には生き物の絵がたくさん描いてある図鑑ばかりでしたが、写真や映像を駆使した図鑑が

今の子供達の心をしっかりつかんでいるな～と実感しました。

このシリーズ以外では、鉄道好きな長男は電車や蒸気機関車の図鑑、次男は働く車関係の図鑑が愛読書です。さらにお友達の影響でポケットモンスター(通称:ポケモン)大図鑑も毎日眺めているのですが、このポケモン達が私としては興味深いのです。ムクドリポケモンの「ムックル」やその進化形「ムクバード」はムクドリがモデルに、コマドリポケモンの「ヤヤコマ」がコマドリをモデルにデザインされたようで、子供達と名前の由来について話をするとき鳥図鑑が役立ちます。

生き物の名前を調べる図鑑は必要ですが、子供達と接していると、遊びを含めて子供達が関心のある分野に応えられる図鑑も必要だなと感じます。子供の興味は無限大ですから。

## 図鑑は絵本

房総の山のフィールド・ミュージアム 尾崎 煙雄

教室博物館の戸をがらりと開け、靴を脱ぐのももどかしそうに入ってきた一年生の男の子が「せんせい、ずかんみせて」といいながら私の作業机から一冊のぶ厚い昆虫図鑑を取り上げ、そばの椅子に腰掛けて無言で頁をめくり始めました。

これは三島小教室博物館での一コマです。房総の山間部の小さな小学校の一室に平成十五年に開設した教室博物館には毎週金曜日に学芸員が駐在し、生物担当の私は毎週ここで動植物標本の整理をしています。古い木造校舎の一室ですが、教室博物館には百冊を超える図鑑があります。これは普通の公立図書館をはるかに凌ぐ品揃えです。

ここの図鑑は私達の仕事道具です。周辺の山で採集した多数の昆虫標本を図鑑と首っ引きで同定する姿を見ていた子ども達は、私の名前を覚え「むしのせんせい」と呼ぶようになりました。生きものに関心の強い低学年の子達は私の手許を覗き込み、「なにしてるの?」「なんていう虫?」などと質問攻めに

します。冒頭の男の子もそんな一人でした。やがてこの子は図鑑に興味を持ちました。しかし、我々の使う図鑑は子ども向けではありません。飽きる様子もなく頁を繰る彼に「書いてあること、わかるの?」と尋ねると、そっけなく「うん」と答えるだけでした。

ある日、私がこの地域で初めて採集した甲虫の標本を検分していたところ、それを脇から覗いた図鑑少年が、すらすらとその虫の名を言い当てたのです。希少種とされる昆虫です。「なんで知ってるの?」と驚く私に「ずかんにのつてた」と一言。私にとっては専門書である図鑑を、彼は絵本のように読み、虫の絵とカタカナ書きの種名を端から覚えていたのです。乗り物や怪獣の絵本に夢中になるのと同じことなのかも知れません。

そんな図鑑少年も今は高校生。進路希望を訊かれて「昆虫の研究ができる大学に行きたい」と答えたそうです。頼もしい限りです。

## 著者と編集者の“つくりたい”

全国農村教育協会 鈴木 奈美子

図鑑は、学生の頃は野外で採集してきたものを調べるための必須アイテムでした。それから十数年、重要アイテムだということに変わりはありませんが、今は、編集者として図鑑を作る側にも身を置いています。

図鑑の編集という仕事は、どちらかというと地味、もしくは地道な仕事になると思います。作る側としては、図鑑をコツコツ作ってゆく、のが理想です。

著者から送られてくる大量の原稿と画像の管理には気を使いますので、手違いが起らないよう落ち着いて進行できる時間と広い机を確保して編集作業を行ないたいものです（いつもそうできるとは限らないのですが）。

著者からの原稿・画像を本の体裁に整えてゆく過程（原稿→サムネイル（ラフのレイアウト）→初校→再校→念校→入稿）で、著者に確認しては、読み返す、を何度か繰り返しては内容の精度を上げてゆきま

す。編集者とデザイナーのやりとりもあります。デザイナーに、何を意図してこの画像を掲載するのか、を理解してもらっているのかとしないのでは、表現方法にも大きな差が出てきます。

図鑑に限らず本は、このようにある程度（あくまでもある程度ですが）、編集者の頑張りによって、内容の精度を上げることができる部分があるようです。けれども、その図鑑（本）の本質は著者によります。原稿からは、自分が書きたいことを書いているのか、第三者を意識して書いているのか、著者の視点が伝わってきます。

ともあれ、それら原稿を編集者は、多くの人が手に取ってくれる本になるよう、とにかく、心を砕いて図鑑（本）づくりに取り組んでいます。

## 図鑑展に寄せて一図鑑と私

自然誌・歴史研究部長 宮野 伸也

私と図鑑との出会いは、小学校入学前に祖父に買ってもらった昆虫図鑑です。名前や出版社は判りません(捨てたはずはないのに見つからない)。私の子供のころには、男の子は虫を相手に遊ぶのが普通でした。私もいろいろな虫を捕まえては飼いました(とはいえもの実際には“殺し”ていることの方が多かった)。買ってもらった昆虫図鑑には、庭やその周辺では見られないきれいな虫がたくさん載っていました。大きくなったらこんな虫を捕まえたいと思い、図鑑を眺めて(読むのではない)いました。また逆に自分が捕まえた虫を図鑑の写真あるいは絵と見比べて名前を決めていました。いうところの絵合わせで、おそらく正しくないことも多かったものと思われる。

少し字が読めるようになると、それぞれの種の特徴や分布などの説明を読むようになりましたが、昆虫の専門用語を理解しているはずはなく、相変わらず絵合わせの状態でした。時々これまで見たことも

ないような虫を捕まえて、図鑑の図と見比べてこの種だと決めて説明を読むと、最後に“各地に普通”と書かれていて、えらくがっかりしたものでした。

その後、いくつかの図鑑を買いました。特に私のお気に入りには北隆館の『原色昆虫大図鑑Ⅲ』でした。その理由は、私の好きなハチが一番たくさん載っていたからです。

中央博物館に就職してからは、いろいろな昆虫図鑑に仕事の上でお世話になるようになりました。県内での昆虫相の調査では、採集した昆虫の名前を調べなければなりません。一般の方からは昆虫の名前の問い合わせがあります。これらの時にまず最初に役に立つのが昆虫図鑑なのです。ただし念のために言っておきますが、図鑑だけで名前が判ることもありますが、図鑑だけでは判らないことは多々あり、その場合には、専門の文献を調べたり、その虫の専門家に問い合わせたりしています。

## 学習図鑑の魅力

企画調整課 小田島 高之

もう何年にもわたって学習図鑑を集めています。昭和30年代に小学生だった方々にはなじみ深い小学館の学習図鑑シリーズ。そう、あの背表紙が赤とベージュで〇〇の図鑑と書かれているアレです。シリーズ全巻で28冊。この数ですから、動物や植物、岩石、乗り物などの一般的な対象でなく、「採集と標本の図鑑」とか「通信報道の図鑑」などという、いわゆる図鑑があまり対象としないものを扱ったのもありました。また、小学生向けの学習参考書としての役目も考えられていたようで「家庭科の図鑑」や「社会科の図鑑」なんていうものもラインアップされていました。

この図鑑のすごいところは、図のほとんどが人の手で描かれているところでしょう。当時は写真を載せるより画家に描いて貰ったほうが安かったのかも知れませんが、昆虫の図鑑で言えば、昆虫そのものも、その昆虫の生息環境や本格的な採集道具も全て味のある手描きです。

「何かの名前を調べるときに使う」という観点から見れば、図は手描きですし、載っている種類数も少ないこのシリーズの図鑑は、今の図鑑に比べると力不足かも知れません。しかし、私はこのシリーズの図鑑の小学生の頃をそのままパックしたような懐かしさに惹かれます。

来年度は、この学習図鑑を紹介する講座の開催を企画しています。講座では、実際に図鑑を手にとりてご覧頂けるようにするつもりです。興味のある方は是非、ご参加ください。



筆者の学習図鑑コレクションの一部

## 図鑑と標本

資料管理研究科 駒井 智幸

生物の図鑑には、標本から生きていた様子を撮影したものまでさまざまな図画・写真が掲載されています。生物の形の特徴を伝え、なんという種なのかを調べる(同定する)手がかりとなること目的とした図鑑であれば、標本の写真がたくさん掲載されます。筆者のように、分類学を専門としている人間が図鑑を見た時に注目するのが、同定の正確さです。図鑑によっては、「種同定が間違っているのでは?」というケースもあり、そのような時には、掲載された標本の実物を見たくなくなってしまいます。

ところで、みなさん、図鑑に掲載された被写体って、どうなるのか知っていますか? その運命は、実はいろいろです。例えば、生態写真を主に使用した図鑑だと、被写体となった生物の標本は採取されないこともあります。ただし、被写体がどのような種に帰属するのかを正確に知りたい(「種を同定する」といいます)という場合には、標本が採取され、専門の研究者のもとに届けられることがあります。このような場合、標本自体が大変貴重なこともあり、研究材料とされ、博物館の資料として生き残ることとなります。学術的な傾向の強い図鑑だと、標本が資料として後々まで保管されるケースも少なくないと思います。

筆者は、2005年に刊行された、小学館の図鑑NEOの『水の生物』の執筆に参加しました。小学生を主な対象とした図鑑なので、掲載種の多くは磯や干潟で普通に見ることのできますが、執筆にあたり希望したのが、「全部でなくてかまわないので、自分の担当する甲殻類の標本は残しておきたい」ということでした。理由は、種の同定に間違いがあったり(もちろん、間違いのないよう最大の努力はしますが)、分類学的な研究が進んだ結果、1種とされていた種に2種以上の種が混在していた、など標本の同定を確認しなければならぬケースが生じることがあるからです。図鑑は未永く使われるものであり、図鑑を生物種の同定の手がかりとするのであれば、その内容は科学的にもできるだけ正確であるべきです。そのようなわけで、中央博物館には『水の生物』に収録された甲殻類の標本の多くが保管されています。図鑑に掲載されているのは、新鮮な状態の標本なので、生きていた時さながらの色がまだきれいに残っています。しかし、現在では、掲載した写真のように色はほとんど消えています。エタノールで保存すると色の

成分が溶けだしてしまうからです。それでも、種の同定に必要な“形”の情報はいつでも得られます。さて、一方で、標本を残さなかったものもあります。それは、タラバガニ、ズワイガニ、タカアシガニ、ケガニといった、同定ミスする可能性はあまりないだろうと思われる食用種です。図鑑製作担当のスタッフの方々の胃の中に収まってしまったかもしれません。



NEO『水の生物』に掲載されたセンジュエビの標本。  
色は消えても形は残る!

さて、種の同定に疑問が出たということはあったのでしょうか? それがあったのです。『水の生物』は2005年に刊行されたのですが、その年に、それまでケフサイソガニとして知られてきたカニに2種が含まれており、そのうちの一種が新種であったという論文が公表されました。新種の方は、タカノケフサイソガニという和名で紹介されました。『水の生物』にも“ケフサイソガニ”が掲載されていたのですが、改訂の機会になって、この標本は「さあ、どっち?」ということになりました。図鑑には背中側の写真が掲載されているのですが、種の特徴となる形態や色は、この状態では確認ができないのです。幸い、標本は保存されており、タカノケフサイソガニの方だったことが確認できました。最新版では修正されることでしょう。これからも、よりよい図鑑を作ることに貢献できればうれしいです。



NEO『水の生物』に掲載された“ケフサイソガニ”の標本。  
見直したところ、タカノケフサイソガニの方でした。  
背中側だけだと、区別は難しいのです。

## 平成25年度マリンサイエンスギャラリー

## 海藻いろいろ—千葉県の豊かな海から—

平成26年2月15日(土)～5月6日(火)

分館海の博物館 菊地 則雄

ノリ、ワカメ、コンブ・・・海藻というと、多くの方は食べるものを思い浮かべるとと思いますが、海で生きている海藻をしげしげと眺めたことのある方はあまりいないのではないかと思います。磯での生きもの観察会でもあまり注目されない生きもの海藻。しかし、潮の引いた磯は海藻だらけなのです。日本は、そんな海藻が世界でも最も豊富な地域のひとつ。その中でも千葉県はこれまでに500種類以上の海藻の生育が記録されている、とても海藻の豊富な場所なのです。

このマリンサイエンスギャラリーでは、特に千葉県の海藻を対象に、種類、色、姿形、役割、利用など、海藻の魅力を楽しく紹介しています。

## 「千葉の海藻いろいろ」

千葉県は、波の荒い太平洋と波静かな東京湾に囲まれ、岩礁域、砂浜、干潟など様々な環境の海岸線を持っています。また、太平洋の房総半島沖周辺は、寒流である親潮と暖流である黒潮の接点にあたります。そのため、それぞれの環境を好む様々な種類の海藻が生育しています。全体としては温帯域に分布の中心を持つ海藻が多いですが、北の銚子周辺を中心に冷たい海に見られる海藻も、また南の館山周辺を中心に暖かい海に見られる海藻も生えています。

中には、とても珍しい海藻もあります。その横綱級は、褐藻のオオノアナメ。コンブの仲間の海藻ですが、世界でも千葉県の外房地方の勝浦市からいすみ市沿岸でのみ生育が確認されています。そして、水深10m以上の深い所に生育し、たまに漁師さんのかけた網に引っ掛かってくるくらいしか見つからない、



勝浦沖で採れたオオノアナメ

まさにレアもの海藻です。

その他、絶滅危惧種の海藻もあります。紅藻のアサクサノリは、かつてノリ養殖の主要な対象種で、日本各地で養殖されていましたが、今では全国で40所くらいしか生育地が見つからない絶滅危惧種で、千葉県内では3カ所で生育が確認されています。

今回の展示では、勝浦市の漁師さんから提供されたオオノアナメの標本や、千葉県産の生きたアサクサノリを展示しています。

## 「海藻の役割いろいろ」

海水浴場では邪魔者扱いされるような海藻。しかし、海の中ではとても重要な役割をしています。例えば、海藻は光合成を行って有機物を生産し、海の生きものたちの「食べ物のもと」となっています。そして、海藻がたくさん生えた「藻場」には、海藻を食べる動物やその動物を食べる動物、海藻を住みかや産卵場とする動物などが見られ、まさに動物たちの楽園となっています。

この展示では、勝浦の磯に生える海藻とそこに住む動物の何種類かを水槽に入れ、藻場を再現しています。



勝浦の潮の引いた磯で見られる藻場

その他、人の暮らしの中で利用されている海藻や最近アートとしても人気の出てきている「海藻おしば」などについても紹介しています。この機会にぜひ海の博物館にお越しいただき、千葉の海藻のことについて知っていただけたらと思います。

分館から

# 仏教美術で地域文化を再発見

大多喜城分館 村田 憲一

大多喜城分館では平成24年度に企画展『上総の仏教美術～夷隅・長生～』を実施し、本年度は『上総の仏教美術Ⅱ～長生・山武～』を実施しました。

主な展示資料としては、睦沢町の長昌寺の木造不動明王坐像、大多喜町の紺屋区の木造馬頭観世音菩薩立像、芝山町坂志岡尼ヶ谷遺跡出土の銅造菩薩立像、長南町の長福寿寺の木造阿弥陀如来坐像、いすみ市の法華寺の木造阿弥陀如来坐像、同市の行元寺の絹本著色両界曼荼羅図、長柄町の力丸区の銅造准胝観音立像、同町の日輪寺の絹本著色真言八祖像及び密教法具、長南町の笠森寺の重文・鋳銅唐草文釣燈籠、山武市の真行寺区の銅造山王七尊懸仏などを紹介しました。

2回の展覧会をとおして、夷隅・長生・山武地域には、古くから仏教が伝えられ、中世には非常に隆盛を極め、質の高いさまざまな文化財が存することや、日蓮聖人・夢窓国師・日親上人・亮運大僧正などの高僧との関連が確認できるなど、地域文化再発見の良い機会となりました。



絹本著色胎藏界曼荼羅図



木造阿弥陀如来坐像



銅造准胝観音立像



鋳造唐草文釣燈籠

# 昭和の名車大集合

大利根分館 佐藤 誠

晴天に恵まれた11月3日、第2回目となる「昭和の名車大集合Ⅱ」が大利根分館で開催されました。地元のクラシックカー愛好家の皆さんが中心となり、昭和30～40年代に製造された往年の名車34台が集結しました。

当日注目を集めたのは、2020年東京五輪開催決定を受けて展示された、昭和39年製のプリンスグロリアで、昭和39年の東京五輪でJOCの公用車として使用されました。車体に取り付けられた五輪のエンブレムとスカイブルーの車体が美しく、たくさんのお見学者が記念撮影をしていました。(写真右)

また、これに関連して地元香取市(旧佐原市)の生んだ東京オリンピック(昭和39年)ボクシング金メダリスト、櫻井孝雄氏の金メダルや深紅の



ブレザー、ボクシンググローブなどを展示したロビー展も同時に開催し、好評を得ました。

当日はNHKの昼のニュースでイベントの様子が紹介されたこともあって、2000人を超える見学者が来館され、地元の皆さんの地域おこしに賭ける情熱が、見事に実を結ぶ結果となりました。このイベントは平成26年度も実施する予定です。



## 来園者が作る生態園の解説板

生態学・環境研究科 林 浩二

ここ数年、生態園の園路に写真と短い説明の組み合わせの解説板(図・左)がいくつも設置されています。A4判の用紙に印刷し、ラミネートしてプラカードに取り付けたものです。これらの作品の多くは、博物館の学芸員がつくったものではなく、実は来園者の方々が応募したもののなのです。

この解説板を募集する「生態園ギャラリー」や「あなたの発見おしえてください」の他、中学生の職場体験、千葉市中高生の「未来の科学者育成プログラム」、大学生の博物館実習、教員研修な



野外解説板の俳句版(左)と学芸員版(右)の例



ど機会があるたびに作品を募るようにしています。2013年7月～12月には、新作の解説板が80点以上加わり、園路はにぎやかになりました。

時には同じ題材に対して俳句版と学芸員版(図・右)が並ぶこともあります。図に示したのはそれぞれの一例で、筆者が一人二役で作成したものです。園路で見かけた時に、あなたなら、どちらに注目しますか? 実際にお尋ねすると圧倒的に、俳句や川柳といった短い説明の解説板の方に軍配が上がるのが、厳しい現実です。

昆虫は飛んで行き、花は散ってしまっても、確かにその現場で見られたという記録と、それをどう見たのかという作者の意図・気持ちは、この写真+短文の解説板を見る来園者に伝わるようです。

来年度・2014年は秋に「生態園ギャラリー」として、生態園で撮影された新作作品を募集します。みなさんの参加・見学を歓迎します。

## 校内学習で岩石授業

房総の山のフィールド・ミュージアム 大木 淳一

私たちが活動する三島小教室博物館(君津市立三島小学校)の校門、駐車場の砂利、二宮金次郎像や石碑をながめると、堆積岩、火山岩、深成岩、変成岩など地球の歴史を語るに十分な岩石が観察できます。おまけに新日鐵住金君津製鉄所で生産されたスラグ(鉄を作る時にでてきた余分な物質)も駐車場の砂利として敷いているため、地域産業の学習にも役立ちます。校外学習をやらなくても校内学習で様々な授業を展開できるのが三島小の特徴です。

実は昨年、君津市立亀山中学校から君津市清和県民の森の地層を見学する講師依頼があった際、地層を見学するだけでなく、亀山中の石材を活用した岩石の学習を連携して行う旨を話し合いました。というのも、亀山中及びすぐ隣の坂畑小学校の石材はすでに地質調査しており、三島小と同様、教科書に掲載されている岩石が全て網羅できるからです。しかも変成岩が記念碑として使用されているため、教科書の枠を飛び出した地球の内部構造に関するダイナミックな話に展開できる魅力があったのです。

授業当日、校舎周りの敷石を並べて生徒達に話をしてしていると、小間校長が嬉しそうに白い石ころを生徒の目の前に置きました。自慢げに「メノウだよ!」と小間校長は満面の笑顔。彼は三島小の前校長で、三島小駐車場の砂利から美しいメノウを躍起になって探しましたが、すでに子ども達に取り尽くされていたという苦い経験をおもちです。今回、亀山中で私が授業を行う前に密かにメノウを探していたようです。小間校長の活躍もあり、生徒達は小学生の頃から慣れ親しんだ石材で、地球を構成する岩石の学習ができました。



校舎周りでお気に入りの石ころを探生徒達

千葉県は石無し県と呼ばれます。それ故に他県の多様な岩石を使用せざるを得なかった結果、学校内で岩石の学習ができる環境になったのです。学校の石材を見つめることで、房総丘陵の新たな一面を知ることができるのです。

トピックス展

平成26年  
5月10日(土)から5回シリーズ

もののけ来るぞ!

歴史学研究所 内田龍哉

清初の怪異小説「聊齋志異」は、江戸後期にわが国に伝わり、以後、さまざまな翻案作品が生み出されました。作者の蒲松齡ですが、往来に座し、茶と煙草を供しては、通行人に知るかぎりの伝説・奇譚を紹介するよう求めたとか、奇人扱いされて当然ですね。さえない拳子(科学の受験生)の枕頭に夜な夜な異界から美少女が通うというような筋書きも、この熱心な聞き取りの成果なのです。では、どうして怪談ハンター蒲松齡にして世に憚ることが許されたのでしょうか。

想うに、日常が安逸に過ぎ去ることを望みつつ、その対極にある怪異、神秘、恐怖など、この世のものならぬ事共と邂逅したいという矛盾に満ちた性情に憑き動かされることは、誰しも経験したことがあるでしょう。その一方、昔から川・池や高所・崖などの危険を避け、抗い難い自然現象に見切りをつけ賢明に対処するために、妖怪や妖獣の寓話を生み出すという知恵も、人間の集団としての社会には存在します。

自然科学的手法を駆使することで、社会や人生に立ちだかる困難について、今日かなり合理的な解釈を行うことができるようになりましたが、それまでの永い年月において、我々は蒲松齡の「聊齋志異」や上田秋成の「雨月物語」に見られるような怪異のわかりやすい解釈や優しい慰藉を必要としたのかも知れません。閑話休題。

漢学者久保木清淵(1762～1829)の作とされる怪体な河童絵が大利根分館にあります。「大きさと色は図のとおり、両手両足に凹んだ所があり、そこを使って物を持つ、尻から下がっているものがあり、中にへこみがある」とまことに真実らしき観察が付記されている上、この怪獣が実際に捕獲されたと記されています。詞書きによれば、江戸は木場の材木の上に昼寝して居たのを見つけ



江戸本所木場ニテ  
得タル所ノ怪獣図  
(香取市教育委員会 蔵)

た鳶職人が、大きな鳶口で撃ち貫いて捕え、田村玄長なる人物に鑑定を依頼したところ、「河童というものであろう」という判定があったそうです。この絵に困惑させられるのは、その田村玄長なる人物が実在しているからです。玄長こと田村西湖(1745～93)は、我が国本草学の基礎を築いた田村藍水(1718～76)の子です。藍水は蘭癖を以て鳴る薩摩藩主島津重豪とも交流があった博物学者で、むろん実在します。玄長は父に随行して諸国を巡るとともに、自身も伊豆七島を探検し、『豆州諸島物産図説』を著しました。その玄長が怪獣を目撃し判定したのですから、この怪獣は実在したことになりますが、また、この河童図が昌平坂学問所の儒者古賀侗庵による「水虎考略」の挿絵にも酷似していて、もう訳がわからなくなります。



人魚図  
(和漢三才図会より)

わが国博物学の大著『和漢三才図会』の「魚部」には鮒や鮭と並んで「人魚」が登場します。しかも著者寺島良庵(生没年未詳)は「オランダでは人魚の骨は解毒剤として神効ありとされ、その骨で器を作り、腰に下げて用いた」と記しています。篤実な国学者平田篤胤(1776～1845)も薬効を信じて江戸に住む家族に「人魚の骨」を送ったことが、自筆書簡(国立歴史民俗博物館所蔵)から確認されています。彼ら読書階級にしてこの有様ですから、江戸や地方の庶民の間で怪談噺をリレーする「百物語」が流行し、「雨月物語」が読まれ、「東海道四谷怪談」「真景累ヶ淵」等々を名優が演じては喝采を浴びたのも無理からぬことです。いやはや、怪異・妖怪・妖獣・幽霊等々は我々のご先祖様たちのなんと身近にあったことでしょう。

中央博物館本館では、平成26年度を通して、トピックス展「もののけ来るぞ!」シリーズを開催します。これは「河童」「浮世絵」「鬼」「天狗」など房総ゆかりの妖怪・妖獣やその怪談・伝説を発掘し紹介するもので、27年夏に予定されている企画展「此の世のものならぬ(仮称)」のプレ企画です。事前のPRに加えて、資料調査の進捗状況も併せてご紹介します。乞うご期待!

中央博物館だより No.71 平成 26 年 3 月発行

編集・発行 | 千葉県立中央博物館

本館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 TEL 043-265-3111 FAX 043-266-2481  
分館海の博物館 〒299-5242 勝浦市吉尾 123 TEL 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821  
大利根分館 〒287-0816 香取市佐原ハ 4500 TEL 0478-56-0101 FAX 0478-56-1456  
大多喜城分館 〒298-0216 夷隅郡大多喜町大多喜 481 TEL 0470-82-3007 FAX 0470-82-4959

PC <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/> 携帯 <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/mobile>

